



名古屋市立船方小学校の子供たちが国際宇宙ステーションと交信に成功

10月29日17:19、名古屋市熱田区の名古屋市立船方(ふなかた)小学校の子供たちが、国際宇宙ステーションに滞在している女性宇宙飛行士のシャノン・ウォーカー宇宙飛行士との交信に成功しました。このスクールコンタクトは国内で48例目ですが、東海地方では4例目、愛知県内では3例目の実施となります。

また同校では応募当初、日本人宇宙飛行士との日本語の交信を熱望していましたが、長期間の順番待ちが続くことを懸念して、日本人宇宙飛行士の長期滞不在の期間の、アメリカ人宇宙飛行士との英語の交信に転じて実施されました。

今回、スクールコンタクトの実施に協力した「アマチュア無線家」の立場ではなく、学校側の実施責任者とし

て、スクールコンタクト・プロジェクトを進めてきた、同校の小林 哲先生から、たいへん貴重なレポートをいただきましたのでご紹介いたします。

☆☆☆

名古屋市立船方小学校は、熱田区の南部に位置する学校で、創立136年の歴史をもつ伝統のある学校です。学校では「人間性豊かな船方っ子」の育成をめざして、「なかよく学ぶ明るい子」「よく考え、正しく判断できる子」「やさしく思いやりのある子」「心も体も健康で実践力のある子」を重点目標にして教育が進められています。

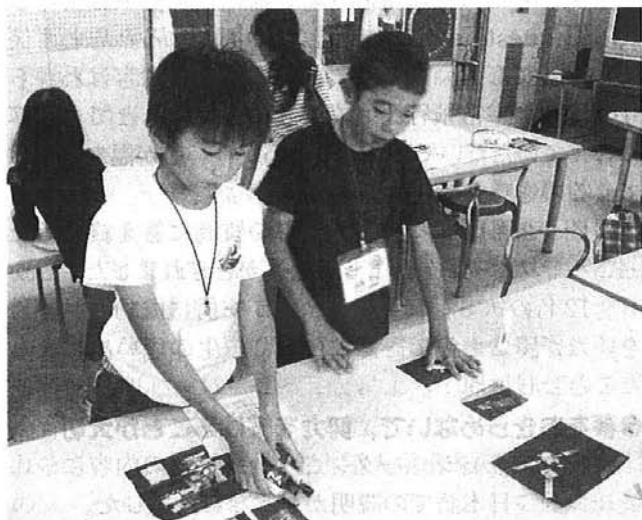
今回は、全校716名の中から4、5、6年生で参加を希望した12名の子供たちが「チャレンジャー」となって交信に臨みました。東海地方本部のスタッフと船方小学校の教職員が力を合わせて準備が進められました。

●子供たちの未来のために「夢を叶える体験」を

2009年の春、当時、JARLの愛知県支部長だったJG2GFX種村一郎さんからARISSスクールコンタクトの活動について紹介をいただき、子供たちに夢と希望を与えるまたとない機会であると考え、ARISS Japanを通して「日本人宇宙飛行士による日本語での交信」を希望し申請をおこないました。

テレビのニュースでは、2009年3月から国際宇宙ステーションで活動をしている若田宇宙飛行士の話題が報道されていたので、「ひょっとしたら、もうすぐこの若田さんと交信できるのでは」と、胸を膨らませていました。

すると、7月11日に岐阜県の武芸川中学校で若田宇宙飛行士とのスクールコンタクトがおこなわれたというニ



▲事前研修会のひとこま

ュースが報じられ、「すごい！こんな風に交信できるんだ！」と感動する一方で、若田宇宙飛行士のミッションが終わるまでに順番はまだまだ回ってきそうにないだろうという思いも湧いてきました。

その後、2009年12月に野口聡一宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに搭乗しましたが、日本人宇宙飛行士との交信を希望する団体は多く、野口宇宙飛行士の滞在期間中に実現できる見通しが立たないことが明らかになってきました。

そんな折、ARISS Japanから「日本語による2010年内の交信は困難で、英語なら2010年内に実施できる可能性がある」とのご連絡をいただきました。

小学校の授業では、2010年度から5、6年生において外国語活動の授業が週に1時間実施されるようになりましたが、「英語に慣れ親しむ」ことを目標にしているため宇宙ステーションの外国人宇宙飛行士と英語で話すには大きなハードルがあると感じていました。

そのため、すぐには「英語での交信で申し込んでください」とお願いすることができませんでした。しかし、種村さんを始めとする東海地方本部のみなさんから「英語のサポートをしていただける外国人のスタッフも確保します」という熱いご支援をいただくことができたので、英語による交信に切り替え、早期実現に向けて動き出しました。

2010年6月23日に名古屋のすぐ隣の尾張旭市において旭学舎(あさひまなびや)の子供たち23名がトレーシー・カードウェル・ダイソン宇宙飛行士と英語で交信に成功しました。

低学年の子供たちも明るい大きな声で英語の質問をしている姿を目の当たりにして、船方小学校の子供たちもきっと成功できるに違いないと確信し、励みとなりました。

●4回の事前研修～そして、本番へ

2010年7月、船方小学校の4、5、6年生を対象にチャレンジャーの募集をしたところ、男子5名、女子7名、計12名の子供たちが参加することになりました。

9月11日に第1回の事前研修会を開き、チャレンジャーの子供たちとその保護者に対して、スクールコンタクトの目的やアマチュア無線の基礎知識、国際宇宙ステーションとの交信方法など、具体的な説明をしました。

参加者からは「本当にすごいことだと改めて思いました」「夢みたいだ」という声が聞かれました。スタッフの熱心な説明を聞き、会場に集まった全員が「きっと成功させるぞ」と心一つにしました。

9月25日、10月9日、23日と事前研修を重ねていきました。子供たちは、自分で考えた質問を英訳してもらい、ジョーダン・ジョンソンさんから発音の指導をいただきながら少しずつ自信をもってマイクを握ることができるようになりました。

また、宇宙やロケットの仕組み、無線の電波のことなどについて、3～4人のグループにわかれて調べ学習もおこないました。



▲交信中のひとこま

そして、「人工衛星と宇宙食について」「無線の電波はどこまでとぶか」「有人宇宙飛行の歴史」など、調べて分かったことや感想をポスターにまとめていきました。

この4回の研修会で、保護者の皆さんも互いに親交を深め、会場の装飾作りに熱心に取り組んでいただきました。

10月21日に待ちに待った「10月29日PM5時17分に交信決定、宇宙飛行士は『シャノン・ウォーカー女性宇宙飛行士』に決まった」という連絡を受けると、保護者の皆さんから「ここに、シャノンさんの写真を飾ろう」「子供たちがもっとイメージできるようにしよう」と一段と熱の入った応援の言葉が聞かれました。

●12名の子供たちが16の質問に成功

10月29日、夕暮れの空の下、アンテナが南西の空に向かって国際宇宙ステーションの信号を待っています。コントロールオペレーターの7L1FFN磯さんの「NAISS, NAISS, this is 8N2FE」のコールに、「This is NAISS」の応答があったときには、会場のすべての人が心の中で拍手をしていました(事前に拍手は交信が終わるまでしないようにと注意を受けていたので…)。

2人目の質問が終わった後で、一時ISSからの信号がとれなくなるという状態が20秒ほどあったときには、冷や汗が出ましたが、すぐに交信を復活させることができました。

子供たちは次々に質問をおこない、宇宙飛行士から「Good question!」という言葉が聞かれると思わず笑顔になってしまいました。英語の詳しい内容はわからなくても、宇宙飛行士さんがどの質問にもとても丁寧に答えていただいていることがわかり、心が温かくなっていくのを感じていました。

質問が2周目に入り、16個目の質問に答え終わったところでフェードアウトし、応答がとぎれました。しかし、12名のチャレンジャー全員が交信に成功し、答えをいただくことができたことは、一生の思い出になったことでしょう。

●夢をあきらめないで、努力を続けることが大切

交信を終え、ジョーダンさんから交信の内容について一つ一つ日本語での説明がおこなわれました。

その中で、「宇宙飛行士になるために、小学生のうち

からしておくとい訓練は?」という質問に対して、シャノン宇宙飛行士は「夢をあきらめないで、努力を続けることが大切だよ」と答えてくれました。この言葉は、今回のスクールコンタクトに携わったすべての子供たちや保護者、スタッフにとって忘れられない宝物になりました。

交信決定の通知を待ち続けた1年半、雨の中で屋上に砂袋を運んだアンテナ設置、台風の接近を心配しながら迎えた交信当日…本当にみんながあきらめないで努力を続けてきたからこそ成功できたのだと思います。今後もARISSスクールコンタクトを通して夢に向かって努力する子供たちが育つことを願っています。

(愛知県名古屋市立船方小学校教諭 小林 哲)



▲ジョーダン・ジョンソンさんから交信終了後に内容が紹介された